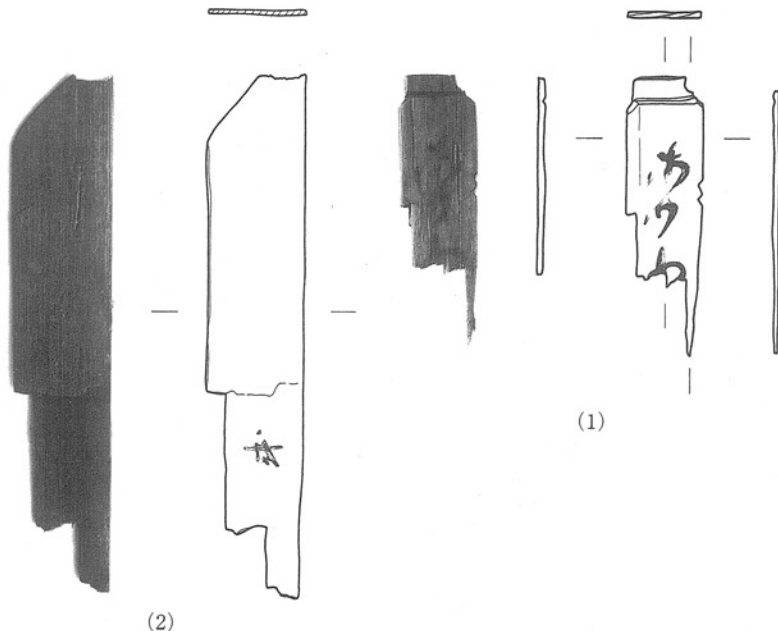


い。(1)は上部に切り込みがある。(2)は上部に加工した痕跡があり、曲物の底板材と考えられる。

(稲垣裕二)

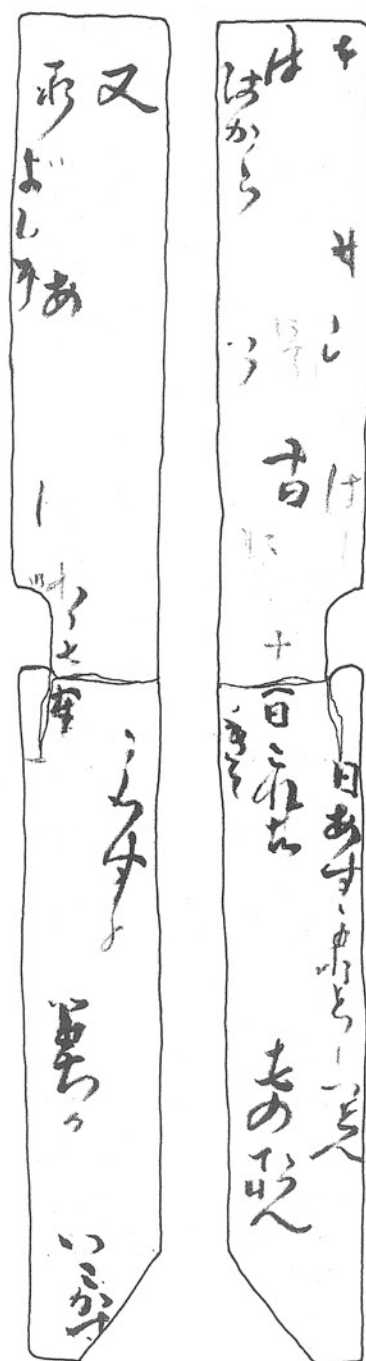


新潟・下前川原遺跡 しもまきかわら

- 1 所在地 新潟県豊栄市高森字下前川原
- 2 調査期間 二〇〇二年(平14)十一月～十二月、二〇〇三年三月～四月
- 3 発掘機関 豊栄市教育委員会
- 4 調査担当者 遠藤恭雄
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



下前川原遺跡は阿賀野川の河口から六・五kmほど上流の、旧流路右岸の自然堤防上に位置し、水田基盤整備事業に伴って二〇〇二・二〇〇三年度に調査を実施した。調査地点の標高は二・五～三m、調査面積は一八九九㎡である。検出遺構は溝四四条、井戸一〇基、土坑二五基、ピット八九五基である。遺物



梶目材で二片が接続し、側辺及び接続部の一部を欠損するが、ほぼ完存に近い状態と思われる。上端は切り折りされ、下部は文字を切って斜めに切断されている。

裏面は「又」で始まり、表面から記載が連続すると考えられる。内容的には不明な部分が多いが、日付を追って物資を量り、動かし た記録簡と推定される。

なお、釈読は新潟大学の小林昌二氏に依頼し、奈良文化財研究所の綾村宏氏、渡辺晃宏氏、吉川聡氏、山本崇氏ほかのご協力を得た。

9 関係文献

豊栄市教育委員会『下前川原遺跡発掘調査報告書』（二〇〇四年）

（遠藤恭雄）